



上 徳島の夜空に「カモカ連」のノボリが舞い踊り  
 中 アラエッサッサじゃなくて、エライヤッチャ、エライヤッチャ  
 下 さあこれから踊るんデスと「カモカ連」のメンメン

## ●小山乃里子の 華麗なる挑戦〈6〉

# 踊らにやソン ソン阿波踊り

「カモカ連」というなんのつどいやわけのわからん連をつくって、阿波踊りに行こうという誘いには、実にあっさりのもつたものの、その趣意書なるものみて、はたと当惑してしまった。女性のみ足袋、襦袢、帯ひも持参と書いてある。自慢じやないが、

「君の和服姿を一度見てみたい」

なあんていう男共の嘆願を、鼻先でせせら笑って過した月日（笑うな！）私の生活の中には和服の小物すら入りこむすき間はない。えらいこっちゃ。ソックスではあ

かんやろなあ。ベルトやたらかっこ悪いわなあ。仕方ないから母さんののを借りることにした。

「後で洗って返すのめんどくさいよって、踊ったらそのまま捨てて来てもええような、悪い足袋あったらちようだい」

そんな悪いもんはいてへん、とえらい怒られた。

さて、いよいよその日は来た。

八月十二日、金曜日、空はあくまでも晴れて、絶好の阿波踊り日和り。毎日放送の生放送終ったのが十一時四



田辺聖子さんも、カモカのおっちゃんも、たかはしもうさんもみんな踊りました

十分。他の連中は十一時に大阪駅集辺からバスで港まで行っちゃった筈。すぐ飛び出すはずが、その次一週間夏休みを取っていることもあり、後を頼んだり、はるばる岡山から来てくれたフアンの方に挨拶したり笑ったり。結局タクシーに乗ったのが十一時五十五分。

「すみません、阿波踊りにいきますね。フェリーが十二時二十五分には出てしまうの。それに乗られへんかったら、この一年いっしょけん命この日のために働いて来たことがパーになるの、頼みますワ、間に合わせてね」

泣きがきいたか、威しのせいか、運転手さんはひたすら南港めざして走ってくれた。ハアハア息を切らして船に乗ったら、ボワーンとドラの音。見送る人として誰もなく、我々「カモカ連」は大阪を離れたのでありました。

小松島に着くまでの船の中での有様を本当はくわしく書きたいけれど、それだけで、多分紙面は終ってしまいうので、ここは涙をのんで割愛。

小松島から徳島市内の我がらがお宿まで観光バスに乗った。ガイドさんからひとわたりの阿波踊りの由来などを

同う。

「ころは天正十三年、夏とはいえど片田舎？ 蜂須賀公の城内にて長きいくさの終りを祝い飲めや踊れの無礼講」それが踊りのはじまりで、笛に太鼓に三味線の音色はみんな違っている。笛の音色をよく聞けば、ヨールヒルヨ、ヨールヒルヨ、ヨールヒルヨ。太鼓が出て来てドドンガドン。三味線浮かれて、シャシヤリンコ・シャシヤリンコ・シャシヤン。そこへかけ声、アーラ・エライヤツチャエライヤツチャ・ヨイヨイヨイヨイ。

平均年令かなりいきそうな我がらがグループなんと無邪気に、ガイドさんの音頭取りで声を合わせてどなったことか。

さて旅館に着いて、一同二階に通ざれるとめいめいの名前が書いたふだが衣装一セットの上にのっていて、それをかかえて船の中で発表された部屋割りの部屋にひっこんだ。カモカ連のユカタにはカモカのおっちゃんの顔があつちこつちに、にたつと笑っている。ピントのお腰は自分で巻いて、帯をしめてもらう順番を待っている間、この顔もようが私の豊かな胸のうにこないように、キリリッとしたヒップのうにこないように、もぞもぞ一人でもだえていた。しかししんどいもので





本番前からして疲れたよ。アンタヤリスギヤデ。



太鼓が出てきてドドンガドン。私の太鼓で踊れるかなー。

すな、ユカタだって和服のうち、帯をきりりっとしめられて、金魚みたい、ただ口をバクバクあけるのみ。でもさ、白い腕巻き（手甲というらしい）はめて鳥追笠をかぶり、黒塗りの利久下駄なんぞひっかけると、まあこれはいい女。

やがて男衆、女衆、みんなうれしそうに着飾って大広間に集まって来た。日頃はむづかしい顔したオッサン連中が腰に印籠ぶら下げて短い白いステテコのぞかせて、それぞれ工夫をこらして頭に手拭巻いてるのみてるとホンマに男ハンで可愛いもんですなあ。

地元代表「若獅子連」の兄いちゃん達のおはやしで、さあさあ、練習はじめましょう。四列に並んで、右足出した時には右腕を前に出し、そうそう、左足が前に出ると左手がこう上にあがって、足は、つま先から。ダレですそんなにベタベタと足の裏をひついたらあきませんよ。そう、軽く腰をひねって。その眼鏡かけた女のヒト、その手の振り、なんとかありませんか。なんやオッスゆうて手をあげてみたいでせ。まあそんなもんでしよう。さあ、もう一度やってみましょう。ハア、シャシャリンコ・シャシャリンコ・ドンドコドン。

さっきまで降っていた雨も、いざ花の舞台へという時にはからりと上がり、五十数名ぞろぞろと出かけた。長かったなあ、あの道のり、なんせ下駄というものはくのだって久し振り、最初のうちこそカラコロという音色を楽しんでいたけれど、だんだん疲れて来た。「まだかあー」「もうじきらしいよ」「あつ、聞こえて来たよ。うわあ明るいなあ、ぎょうさんの人やねえ、この中を踊るのん？　むこうからこっちまでかなりあるよ、こら疲れますわ、しゃけど全力あげてがんばりましょうぜ、えいいいオー！」

「カモカ連」の提灯のもと、みんな武者ぶるい。高松から駆けつけてくれたラジオのファンの声援を背に、いよいよわれらが番がまわってきた。一番前に加藤のキヨちゃん達の男踊りが四人、その次の列の端に鳥追笠に



この華麗なる阿波踊り、ホンマニエライヤッチャエライヤッチャ

でっかいグラスのノコさん登場。

踊り出して少ししたら、やたら腕がだるくなった。ちよっと下げかけたら、横からミコちゃんの声「ノコ、ちゃんとしなさい」

その枚数を無事踊り終ったら、不思議なことにさっきまでしんどいのなんのっていったのが嘘みたい。次は商店街を踊りながら通り抜けた。

しかしホンマに踊らなソソソソ、です。見物衆も多かったけど、踊ってる人数も多かったなあ。連のたくさんあったこと。大企業の、××商社や〇〇銀行、電々公社に専売公社、東京や東北の大学の名前もある。やっぱり女性がいる所は一段とあでやかで、男ばかりというのは

もうひとつ哀れな感じがする。商店街を通り抜けて小休止。もうこのあたりで、身体中の水分が出ちゃったように汗だらけ。コーラにジュースに冷コーにキャンデー。たらふく飲んで「さあ、次いこうー!!」

最後の枚数にたどりつき、すぐ踊れると思いきや、順番が仲々廻ってこず、

「次はカモカ連のみなさんですー」

と呼び出された時がすでに十時前。

「さあ、最後の花道です。大きな声を出していきましよう」

それっ、えらいやつちゃ、えらいやつちゃ、ヨイヨイヨイヨイ。お聖サンも、カモカのおっちゃんも、もうさ



ノコのファンに会って、あんたどっから来たん？

んも、実に楽しげで、日頃コワイオオツサンで通っている日経の河塚さんなんて、もうタコ坊主みたい。もうコース全部まわったのにまだこれからみたいな気持ちで、「これで終り？ まだまだやれまっせえ、ほな、旅館まで踊って帰るか」

阿波踊りから帰って次の日、私はアラスカへと飛んだのだけど、とても正直にいっちゃえば、アンカレッジのホテルでひそかに足をもんでいたものでありました。

一晚の、しかもほんの数時間の楽しさだったけど、阿波踊りは、行っって踊る事が大事なんだ、とあらためて教えてくれた。



□話題のひろば

I

★恒例「8の会」開く

## エキゾチックな 真夏の夜の宴



左上は「ローレンローレンヤッーッ」と唄う佐治社長、中上は宮田隆とフラメンコチーム、右上は鴨居羊子さんの舞姿、左下は木村重信、佐治敬三、吉村一夫、小原豊雲、本誌小泉、右下は石阪春生、灘本唯人、川辺純夫、田辺聖子、末広真樹子、徳永秀則。

晴天続きの神戸が久方ぶりの雨模様。ミナト神戸を見降す景観が見事な御影小原流家元会館屋上の芝生の庭も、8月30日の夜は催最中の雨に屋内へ大移動の「8の会」だったが、参加者は約300人の盛況神戸大音声の一人、竹中郁さんの元氣な司会。古林喜楽、初井しづ枝、別軍博資さんら物故会員に黙祷をささげる。

今年は、スペイン帰りの宮田隆さんのフラメンコチームの、情熱的な踊りと弦に、鴨居羊子さんも加って華やかなひととき。ポツリポツリと降る雨に踊る羊子さんの艶姿はさーすが。司会も小山乃里子さんがバトンタツチ。

屋内へ大移動のメインイベントは、ジ・アンカーズ・バンジョーバンドが、デキシージャズを奏でれば、専属歌手の佐治敬三さんが「ローレンローレンローレン」

と声勇ましくカーボーイよろしく唄って大喝采をうける。再度フラメンコショーを披露してエキゾチシズムあふれるショーが続いた。

鈴木剛、藤田慎一郎、灘本唯人さんらの珍しい顔ぶれに、小磯良平朝比奈隆、小原豊雲、木村重信、田辺聖子、ハナヤ勘兵衛、花柳楽睦、乾由明、元永定正、吉原道夫、吉田稔郎、吉村一夫、石阪春生、白川渥さんら、多彩な顔ぶれだった。

□話題のひろば

II

★コウベファッションフェア'77

# ニューライフが テーマの 一カ月



(右上) 全員の微笑を誘った姉ファミリアの一幕。五才までの坊やとお嬢ちゃんが手に縫いぐるみを持って登場。

(右下) 姉マドンナはカジュアルでエレガントなディティウェア。ベストやジャケットの上からショール。

(左) くじゃくの羽を頭に飾った演出の姉ジュネス。こんなヘアアクセサリーで街を歩くのも一興かも。

ザ・ニューライフをテーマに九月三日から三十日間続いたコウベファッション・フェア'77。ファッション都市神戸を市民参加で推進しようと神戸市、神戸商工会議所、神戸新聞社の主催で企画された。

この場合の「ファッション」は装飾という狭い意味ではなく、生活文化全体を指している。従って内容もショー、映画、インテリアの展示、料理の即売、講演会、公園市と生活全般に渡り幅広く、新しい「生き方」を捕えようとしている。

開幕は九月三日のコウベファッションショウ'77。デザインコンテスト入選四作品が始まったこのショウ、神戸のファッションメーカー、デザイナーによる秋冬物の作品一七八点が四八人のモデルによって披露された。テーマはやはりザ・ニューライフ。神戸の街にふさわしくクラシックだがヴィヴィッドな和洋服が、国際会館の舞台に二時間近くに渡って繰り広げられた。

ザ・ニューライフ。経済高度成長を反省して、ゆとりある生活を今私たちは考え始めている。港、坂道、山。豊かな恵まれた自然と地形の神戸にこそ、ゆとりある生活即ちファッショナブルライフは根付き育つのかもしれない。



## ★コウベファッションデザインコンテスト'77 熱気の中で入賞作品発表

全国から応募された約2000点の作品から選ばれた48点の中から、入賞作品を選ぶ最終審査が8月20日に商工会議所で行なわれ、大賞1点、金賞3点、銀賞6点、銅賞10点が決定した。

大賞は佐々木千明さん(学生) 金賞3点は  
駕尾加代子さん(学生) 木内賢能さん(学生)  
山本朝子さん(デザイナー) 4人とも神戸の  
学生だと、神戸勤務で偶然にも神戸に縁の  
ある人たちだった。



大賞をとった佐々木千明さんの作品

多くのデザインはビッグで重ね着と流行は取り入れてあるものの、クラシックでエレガントなシテイウェア。色も秋や冬の街角を彩るにふさわしいモスグリーンや枯れ葉色が多かった。大賞の佐々木さんの作品はモスグリーンのチェックのスカートに赤のセーター、オフホワイトのブラウスにモスグリーンのジャケットとベストを重ね合わせ、スカートと同じ布の長いストールがアクセントになっている。

審査員の一人、デザイナーの水野正氏は「これからは色のコントロール、組み合わせのコントロールが必要で時代になってきた」と、派手さを抑えたクラシックが主流になることを主張していた。

## ★深みある上品なカラーで……

本社屋も完成し、ますます張り切っているワールド側の恒例77秋冬ファッションショウが8月28日ロイヤルホテルで開かれた。「ナチュラルマインド」……あるがままに美しく、テーマに白を中心としたカラーコーディネートで展開された舞台は、20人ものモデルにより迫力充分。ただライトの関係で服そのものがあまりよく見えなかったのは残念だったが司会に細川俊之を迎え婦人客の多い客席を

歓ばせた。マフラー、帽子、シャツ、カーディガン……とずい分多く重ね着をしているのだがどこか落ち着いているのは、深い味わいのある色どろえのせいかな? ワールドタッチといわれる落ちついたショウであった。

## ★ロックのあるファッションパーティ

サンロイヤル10Fのファッション・ジョイアベニューにあるブティック「ギャブリーコリン」(林くにおさん 電話3325920)と「ファッション・アンティック」の「脱獄」(石井浩さん 電話335131)が、第1回のファッションパーティを、本山のモンペリエで8月28日午後6時より開いて、約80人のナウな若ものたちが集った。



ビッグジャンプドレス

ギャブリーのフォークロア風の染のレースブラウスや薄手のビッグのジャンプドレスなどはとてもユニーク。林くにお率いるロックバンド「ギャブリーコリン」の生演奏も楽し、飲んだり、たべたり、おしゃべりしながら、ワイワイとホットなファッションパーティ。好評につき、12月初旬にも企画中とか……。

## ★ユニークな構成で面白味のある スズヤ秋・冬コレクション

9月10日、ニューポートホテルでスズヤが「洋服に愛をこめて」というテーマでコレクションを開催。イングランド・カントリではスポーツティルック、ルームツでは気軽に着る普段着の味、フォークロア、フェミニン・アンティックではサテン地の何年も前にみられたようなタイトスカートのスーツという構成。ビビッド感覚が得意なスズヤらしく、どの部門にも色調はシックだが、アクセントをつけて若々しい気になしをみせた。会場も



フェミニン・アンティックで華やかなフィナーレ  
関係者など、個性的な装いを楽しんでいる若い女性客で熱気がこもっていた。これらの商品は9月下旬より各店で販売。

## ★この秋、ウエディングドレス見つけた?

8月27日、大丸神戸店2Fジパングファッションで、ウエディングとロングブライマードレスのショーが催された。大丸神戸店では、この秋からウエディングや列席の場合のロングドレスに力を入れ、新しいデザインを数々発表。可愛さを強調したものからシンプルで清らかなまでウエディングは平均6~10万円。ロングドレスもこれからは着用の機会が多いので一着はもっていたいもの。



'77秋・冬 ウエディングドレスとパーティードレス新発表表。

## ★ビエール・カルダン来神

舞踊団と共に新しいショウを開催  
モードのレオナルド・ダ・ヴィンチといわれるビエール・カルダンが、マスカン、スタッフ、ピロポリュス舞踊団一行と共に来日し、東京、大阪、神戸でファッションショウを開催する。コスチューム、音、光、香り、モダンパレエによって一体渾然となり構築されたビエールカルダンの世界「ビエール・カルダン・コンヴェール」を存分にお楽しみいただけます。

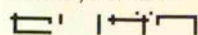
日時/11月4日(金) ところ/神戸国際会館  
S・7000円 A・5000円 B・4000円を神戸っ子愛読者に割引にて発売中  
お申し込みは神戸っ子まで。  
ビエール・カルダンの世界へどうぞ。



MORE CHIC. MORE BEAUTIFUL



*la boutique charmante*



たそがれの風に揺れる秋草は、すがすがしく美しい。  
そんな季節の心をもったイタリアからのコレクション。



serizawa

本店＝神戸市生田区三宮町3-18



# 北野の秋は、 夕暮れ時がいい

こんなワンピースは、  
大人っぽく気取って  
着てみてはいかがでしょう。  
秋の北野の夕暮れ！  
もの思うころ。

婦人服飾とおしゃれ小物

## スギヤ

本店/トアロード/078 (331) 3436  
事務センター/078 (241) 2291.2

八甲店/078 (871) 2733  
池袋店/03 (387) 0567  
梅田店/06 (372) 4877  
宝塚店/0797 (71) 5033  
阪急神戸店/078 (321) 3521  
心斎橋店/06 (245) 1316  
箕面川店/0797 (31) 8193  
宇都宮店/0286 (35) 0111  
渋谷店/03 (476) 1650  
大津店/0775 (25) 5405



優雅に…

秋へ向ってオートクチュールシンワが華麗にオープン!



オートクチュール

*Shinwa*

センター街スタイルパレス3F ☎321-0200

cadena, TISSUS MONDE PARIS等舶来ブランド布地を揃えました。オーダーも承ります。

- ☐ 阪急三宮駅西口「三宮センター街ウェストプラザ」☎331-3098  
☐ さんちかファミリータウン ☎321-5254





秋立ちそめるころ

束の間のいともたえなる

ひとときがある……

秋の薔薇

*alta moda  
paula pelli  
milano*

 *ladies watanabe*

三宮町1丁目ニューセンタービル入口  
TEL (078) 331-1650 10:30AM~7:00PM 水曜定休

●ヘアーを語る

# 個性って。

ヘアカット・デザイン・サロン・アレックス

六甲店・チーフスタイリスト

並河 良明

北野店・チーフスタイリスト

西川 真澄

★モットーはトータルアドバイス

今日はお二人に「個性」について

おしゃべりしていただきたいのです。

西川 私の個性っていうと、オナー、アレックス楊からの影響が大きいのですが、女性としての柔らかさを持つてると思います。お客さまと友達のように親しくなって相談をしながら個性をひきだすのが、私のセールスポイントかしら。

並河 僕は昔から口の方が達者でネ(笑)会話の中からお客さまの個性をみつけ、リラックスしてもらって僕の個性を発揮します。

オナーのアレックス楊さんはどうですか。

西川 オナーは、お客さまに対するファーストインスピレーションを大切にしているようです。例えば私はロングヘアーでしたが、今のように短くカットしてもらいイメージチェンジで個性をひきだしてもらったようです。

並河 それぞれのお客さまは、この店に入ってからある時に、今までの自分とは違った魅力をもつけ変身したいという期待をかけてこれられると思うんです。明るい自分を表現したい時にそれ

が個性となってヘアーに表われるとびつたりなんですよ。

西川 流行の先端をいく服装をしているのも意外とヘアーはオーソドックスにまとめてください、という人が多いですね。それを切り換えるのが私達スタイリストとしての主な仕事かも知れません。

並河 スタイリストってその時が勝負だし、お客さまに受けるかどうか舞台俳優的要素が必要だと思うんです。

トータルの的にもアドバイスすると

「個性をひきだすようにヘアーをつくらう」といつも心がけていますよ。と意欲的な並河さん(右)と西川さん(左)



いうことですね。

並河 もちろん、この店では半面でない全面の大きな鏡を使って常に全体のバランスを考えるようにしています。

★協力し合って個性創りを

並河 初めて来られてカットしたお客さまが、2回目に来られた時にそのヘアーに合わせて何か努力して変わってこれると嬉しいですね。

西川 お客さまに一番表現したいと思うおしゃべりをしてお店に来ていただきたいですね。スタイリスト側もできる

だけ個性をひきだすよう努めてますから。それがシャツとGパンならそれでいいんです。

並河 そこからお互いのコミュニケーションを深め、協力してヘアーを創りだすわけです。

西川 最近では25才位までの女性には服装もヘアースタイルも画一化してきているようですね。東京、神戸といった地域差もなくなっているみたい。

神戸の個性っていうものがみられませんか。

並河 神戸らしさというところが個性ですね。気候風土的にも神戸では、くすんだイメージは合いませんね。明るくって開放的な港町ですから西川 スタイリスト側の個性とお客さまの望んでいたものがピタッと合い、しかもお客さまの個性が表われるというのが一番納得のいく良い仕事ですね。お互いが地を出して話し合い協力していかなくては。

編集室・個性をひきだす、個性を発揮するということは素晴らしいことですね。どんな職種にもこのような姿勢、仕事ぶりが必要なことはないかしら。



KITANO ☎078-222-2555  
ローズガーデン3F 水曜休  
ROKKO ☎078-842-2555  
阪神六甲北カトリック教会浜側月曜休  
両店共電話予約制  
AM.9:30 ~ R.M.5:00 受付





アンド&神戸〔2〕

# 新しい分野に 挑戦！

入江若葉へ女優

カメラ/橋本英男



「どうぞよろしく」とスタッフに挨拶。  
10月からサンテレビ「ハイ！2時です」  
の司会者として神戸を舞台に大活躍し  
ます。乞うご期待！

往年の名女優、人江たか子の娘として芸能界へデビューしたのは18才のとき。妻として、二児の母として、マイペースを守りながら、細く長く仕事をやっていく人だろう。





ヤナセプロのマネージャー、柳瀬無湖さん(右)とは名コンビ。彼女  
いわく、外柔内剛の人。個性的ではないけれど、司会役では少し  
づ自分を出していきたいと抱負を語る。



「神戸の街は初めてなんですけどあちこち食べ歩いたり、ショッピングしたり、アンノン族風好奇心が強くて……」とトアロードのクロスでは清水社長とひとしきりおしゃべり。

